

令和5年度

事業報告書

－ 在宅医療・介護連携推進事業 －

－ 在宅医療に関する市民向け相談窓口業務 －

一般社団法人徳島市医師会

徳島市在宅医療支援センター

【在宅医療・介護連携推進事業】

ア 現状分析・課題抽出・施策立案（計画）

（ア）地域の医療・介護の資源の把握

①徳島市内の医療・介護資源の整理

【取組み内容】

令和5年度現在の徳島市内に現存する医療・介護資源を把握して整理するとともに、月毎の増減推移を調べ、今後の取組みへ反映させる。

【成果や課題等】

医療機関や介護施設・事業所の現存数について月毎に把握して整理した。新たに開設された事業所等は、地域資源情報の更新を行い、研修案内の送付等に役立てることが出来た。

参考資料①

②地域資源情報一覧の運用及び情報更新

【取組み内容】

歯科や薬局、訪問介護等の医療・介護事業所の情報を一覧表にし、ホームページへの掲載や紙媒体による配布を通じて、医療・介護従事者及び地域住民へ正確な情報を提供する。

【成果や課題等】

地域住民や専門職に対し、紙媒体の配布及びホームページ上への掲載として情報提供を継続した。ホームページ（徳島市地域資源情報一覧ページ）には1124件のアクセスがあった。紙媒体の配布数は1576冊となり、令和4年度に比べ235冊減少した。令和6年度は掲載内容の全面更新を行うため、引き続き広報を行っていく。徳島市医療機関ガイドマップについては、冊子の配布及びホームページへの掲載を継続した。

【地域資源情報一覧掲載件数】	
歯科医院	119件
薬局	136件
居宅介護支援事業所	106件
訪問看護ステーション	41件
訪問介護事業所	107件
通所介護	67件
地域密着型通所介護	23件
認知症対応型通所介護	8件
短期入所生活介護	28件
短期入所療養介護	24件
通所リハビリテーション	39件
小規模多機能型居宅介護	10件
看護小規模多機能型居宅介護	2件

【医療機関ガイドマップ掲載件数】	
診療所	220件
病院	45件



参考資料②

（イ）在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

①多職種連携会議の開催

【取組み内容】

在宅医療に関わる多職種（医師・歯科医師・薬剤師・訪問看護師・ケアマネジャー等13職種）が一堂に会し、在宅医療を整備する上での課題とその解決策、地域へ還元した取組みの評価等について協議する場として開催する。

【成果や課題等】

Zoomを活用したweb会議形式で開催した。多職種でACPについて深く議論し、ACPを地域へ浸透させていく上での課題等について話し合った。『もしもの時のために』ノートをより目に留まりやすい場所に設置することや、ACPにまつわる内容をトクシィノートへ記載し、情報共有を行っていくことが決まった。トクシィノートへの記載様式については今後検討する予定である。



参考資料③

②三師会在宅連携委員会の開催

【取組み内容】

三師会主催により、各会員ならびに多職種の在宅医療に関する資質の向上と標準化を目的として開催する。

【成果や課題等】

Zoomを活用したweb会議形式で開催した。三師会それぞれの令和5年度の予定について共有し、疑問点等の情報交換を行った。第10回三師会主催多職種のための在宅医療研修会の開催について議論し、新型コロナが5類感染症に移行することや、インフルエンザ等の感染症発生状況を踏まえ、徳島大学病院感染制御部部長 東 桃代先生に講演依頼をすることが決まった。

参考資料④



③在宅医療に関する各種アンケート調査の実施

【取組み内容】

各専門職や実際に在宅医療と介護を受けている患者及び家族に対してアンケートを実施し、医療と介護に関する率直な意見を把握することで、今後の取り組みに反映させる。

【成果や課題等】

専門職を対象に実施したアンケート調査結果では、よく連携が取れているとの回答があったが、他方では「在宅医療にもっと携わりたいがどのように患者様を探せば良いのか分からない」「訪問の依頼について、特定の医療機関に集中する傾向にある」等の声があり、より多くの医療機関が参入できるように広報が必要であると感じた。患者に対する受け手側アンケート調査では、患者本人やその家族22名から回答があり、「医療と介護の連携が充実している」等の好意的な意見が多かった。バイタルリンクを利用した連携が出来ているとの声もあり、ICTによる情報共有が浸透してきたことがうかがえる。引き続き、定期的にアンケート調査を実施し現状把握に務め、事業の実施に活かしていきたい。

参考資料⑤

(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

①徳島あんしんタッグの開催

【取組み内容】

徳島市オリジナルの地域包括ケアシステムの構築を目指し、徳島市医師会と行政がタッグを組んで在宅医療の整備に取り組むための意見交換の場として定期的に開催する。

【成果や課題等】

4月に徳島市医師会館で開催した。徳島市の人事異動について報告があった後、令和4年度の在宅医療・介護連携推進事業及び在宅医療に関する市民相談窓口の実績報告を行った。令和5年度収支予算について協議し、承認された。また、令和5年度の事業計画(案)について、1. 周辺サポートネットワークとして精神科のネットワークの構築、2. 入退院支援における保健所と急性期病院の意見交換会の検討、3. 対面での在宅医療市民公開講座の開催、4. 三師会主催多職種のための在宅医療研修会の開催について協議した。

参考資料⑥



②在宅療養支援診療所24時間ネットワークの運用と

連携訪問看護ステーションとの連携

【取組み内容】

在宅医療をシームレスに提供できる体制を継続するため、在宅医師同士が副主治医となるネットワークを運用し、医師の負担軽減を図るとともに、訪問看護ステーションとの連携により24時間対応可能な体制を整備する。また、円滑な運用推進を目的に連携会議を開催する。

【成果や課題等】

令和6年3月現在、29か所の医療機関と30か所の訪問看護ステーションが連携している。登録医師と訪問看護ステーションとの連携会議をweb会議形式で開催し、ネットワークの趣旨や、令和4年度の実績報告を行った。徳島市医師会訪問看護ステーション大川管理者から、訪問看護の特定行為について講演があり、提供可能な訪問看護ステーションから、利用手順や実際の稼働状況について報告があった。協議内容をもとに、連携訪問看護ステーション一覧のPR欄に特定行為の提供の有無について、事業所毎に掲載することになった。

参考資料⑦



③24mini(カンファレンス)の運用

【取組み内容】

在宅療養支援診療所24時間ネットワークの機能強化を目的に小グループ化（3名の医師が参加）でモデル運用し、メーリングリストや年2回のカンファレンスの開催を通じて情報共有を図る。

【成果や課題等】

令和5年6月に1名の医師が脱退し、現在、3名の医師でネットワークを構成し、週交代で副主治医制は継続して実施した。副主治医としての往診実績はなかったが、メーリングリストを活用して情報交換を行い、連携としては有効であった。令和6年度以降も体制を継続していく予定である。

参考資料⑧

④在宅医療ネットワーク(TIZI-NET)の運用と後方支援病院ネットワーク(BBN)との連携

【取組み内容】

在宅医療を希望しつつも在宅主治医が見つからない方に在宅主治医を紹介する在宅医療ネットワーク(TIZI-NET)を運用。また、TIZI-NET登録医から在宅療養が困難となった患者の入院要請を円滑に行える後方支援病院ネットワーク(BBN)と連携を図り、より良い在宅医療体制の運用を目的として連携会議を開催する。



【成果や課題等】

Zoomを活用したweb会議形式で開催した。令和4年度のTIZI-NET実績報告及びアンケート調査結果について報告。退院先状況について豊田常任理事から説明。「在宅患者緊急入院診療加算」についてTIZI-NETとBBN双方に対して算定の協力依頼を行った。また、新型コロナウイルス感染症に関する問題点や疑問点について意見交換を行い、患者家族が感染した際、患者本人のレスパイト入院が病院によっては可能であるとの情報共有があった。

参考資料⑨

⑤スクエア会議の開催

【取組み内容】

がん診療連携拠点病院と在宅医療に携わる医師（徳島市医師会在宅医療連携委員）が一同に開始、意見交換を行うことで双方の顔の見える関係づくりと、行政にも参加いただくことで官民一体となった診療連携を構築し、患者やその家族が安心して在宅療養が行える体制整備を行う。



【成果や課題等】

コロナ禍以降4年ぶりの対面開催であった。徳島市の救急医療の状況についてTIZI-NET登録医への事前アンケート調査をもとに報告。がん診療連携拠点病院及びホスピスからは、令和4年度の実績について報告があった。情報交換では、ACPへの取組み状況、退院前カンファレンス等の方法についてディスカッションを行った。在宅医療の受入れで対応困難なケースの情報共有を行い、最後に、バイタルリンクの利用に関して、徳島県立中央病院の片岡先生から利用までの経緯や、利用した感想について報告していただいた。今後、バイタルリンクを活かしたICT連携が促進されることが期待される。

参考資料⑩

⑥在宅医療周辺サポートネットワークの運用

【取組み内容】

在宅医師等からの他科往診依頼に対応すべく、往診可能な専門医でネットワークを構築し、総合的に在宅医療が提供できる体制を構築する。

【成果や課題等】

利用実績は6件、皮膚科4件、眼科2件であった。TIZI-NET登録医師に対してネットワーク活用促進について依頼した。今後、精神科医師によるネットワークの構築について取り組んでいく予定。

参考資料⑪

⑦四国四市在宅医療・介護支援センター職員web会議

【取組み内容】

四国四市の在宅医療・介護支援センターの職員同士が、実務者レベルでの顔の見える関係を深め、情報交換や相談を行うことで、今後の事業展開への企画立案や問題解決につなげることを目的に開催する。

【成果や課題等】

高知市在宅医療介護支援センターと意見交換会を行った。今後の施策や、現在の取組み内容について情報交換を行った。高知市からは、令和6年の事業計画について説明があった。両センターの業務形態なども情報を交換し、新たな課題があった際には今後も情報交換を行っていく。

参考資料⑫

⑧在宅医療連携委員会の開催

【取組み内容】

在宅医療・介護連携推進事業等において、特に医師に関わる取り組みについて意見交換、情報共有を図るため開催する。

【成果や課題等】

Zoomを活用したWeb会議形式で開催した。令和4年度在宅医療・介護連携推進事業等報告の後、令和5年度の事業計画案（周辺サポートネットワークにおいて、精神科ネットワーク構築を検討、入退院支援について）を報告した。在宅療養移行加算に関するアンケート調査や市民公開講座をはじめとする各研修会等について議論した。

参考資料⑬



イ 対応策の実施

(ア) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

①医療介護従事者からの相談窓口

【取組み内容】

地域の医療・介護関係者から、在宅医療・介護連携に関する相談等を受け付け、連携調整や情報提供を通じて、多職種間の円滑な連携を支援する。

【成果や課題等】

令和5年度は、診療所医師や訪問看護師等の専門職から延べ336件の相談を受けた。バイタルリンクに関する相談が多く、ICT連携への関心高まりがうかがえる。相談方法は電話が多かった。

参考資料⑭

(イ) 地域住民への普及啓発

①在宅医療市民公開講座の開催

【取組み内容】

患者や家族・地域住民等が、在宅での療養が必要になったときに必要なサービスを選択していただけるよう、在宅医療や介護への理解を深める機会として開催する。

【成果や課題等】

令和6年3月に、タレント・在宅介護インストラクターの大場久美子氏をお招きし『両親の介護、看取り、在宅医療を経験して、いま思うこと』と題して講演をいただいた。トークセッションでは、徳島市医師会としての取組みや、在宅医療に対する徳島市のビジョン、また在宅医療への不安トップ3について話し合った。当日は233名の一般市民、専門職の方からご参加をいただき好評の声をいただいた。

参考資料⑮



②webを活用した在宅療養支援診療所及び在宅医療整備への取り組み紹介

【取組み内容】

年1回在宅療養支援診療所の医療機能・機関情報を更新し、「徳島市医師会在宅医療整備への取り組み」ホームページにて情報を公開。また、在宅医療・介護連携推進事業の取り組みをタイムリーにホームページへ掲載し、地域住民等への情報提供、普及啓発を図る。

【成果や課題等】

在宅療養に関する医療機関情報、在宅医療・介護連携推進事業の取組み報告等をホームページに掲載し、情報提供を行った。

参考資料⑯



③「とくしま市の在宅医療と介護」パンフレットの配布

【取組み内容】

地域住民が在宅医療を選択する際や必要なサービスを適切に選択するための情報ツールの一つとして活用していただくことを目的に適宜配布する。

【成果や課題等】

ホームページに掲載し、ダウンロード可能となっている。市民公開講座でも配布し、市民や専門職からの在宅医療に関する問い合わせの際にも活用している。効果的な情報提供ツールの一つとなっていると考える。



参考資料⑰

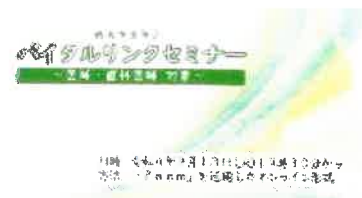
④YouTubeを活用した在宅医療に関する動画の配信

【取組み内容】

インターネットからいつでも在宅医療についての動画が視聴できるよう、YouTubeを活用し、専門職への情報提供や市民への普及啓発に繋げる。

【成果や課題等】

在宅医療市民公開講座や在宅医療研修会等のYouTube配信を行っている。市民に在宅医療を知っていただく機会、また専門職には、在宅医療に関する知識等を習得できるアーカイブ機能として活用した。



参考資料⑱

⑤在宅医療啓発漫画の制作

【取組み内容】

在宅医療支援センターに纏わる在宅医療漫画の制作を行い、市民へ漫画を通して在宅医療を知っていただく機会を提供する。

【成果や課題等】

漫画制作会社に依頼し、幅広い世代に在宅医療に関して普及啓発することを目的として制作。タイトルは「家で暮らす医療」とし、今後、冊子化とデジタル化によって配布する予定である。



参考資料⑲

(ウ) 医療・介護関係者の情報共有の支援、知識の習得等のための

研修などの地域の実情に応じた医療・介護関係者の支援

①ケアマネタイムの運用

【取組み内容】

ケアマネジャーと医療従事者との連携促進を目的に、診療所・病院・歯科診療所・薬局・訪問看護ステーションごとに相談可能な時間帯や方法を集約した上で、ホームページ上に掲載し、ケアマネジャー等へ提供する。

【成果や課題等】

令和5年度は掲載内容の全面更新を実施。31件の医療機関・事業所について、新規に追加掲載することとなった。とりまとめの結果、医療機関185件、歯科102件、薬局134件、訪問看護ステーション39件を掲載している。事業所からの掲載内容変更の依頼には、適宜対応していく。



参考資料⑳

②多職種連携情報共有システム「バイタルリンク」の運用

【取組み内容】

患者情報をタイムリーに共有するため、H28年度より徳島県医師会が導入した「バイタルリンク」を活用し、多職種連携における情報共有ツールの一つとして運用する。

【成果や課題等】

システム利用状況について、令和5年度利用患者数は61名となり、昨年度に比べ22名の減少となった。利用専門職数は、令和6年3月末現在、多職種と患者家族含む475名となっている。急性期病院の医師に試用していただく機会があり、多職種による情報の共有に有用であるとの所感をいただいた。

参考資料㉑

③共通連携「トクシノート」の運用

【取組み内容】

平成27年度在宅医療整備ワーキンググループで作成した共通連携ノートをケアマネジャーや訪問看護師を通じて患者へ配布し、医療・介護関係者間で速やかな情報共有が行えるツールの一つとして運用する。



【成果や課題等】

市役所の各課窓口等に設置している。センターのホームページからダウンロードできるようにしており、多職種連携のツールとして利用していただいている。デジタルツールとして活用している「バイタルリンク」と冊子化の「トクシノート」の双方の利点を活かし、利用者の年代層にあわせて選択できるようにしていくことが必要。

参考資料⑳

④徳島県退院支援の手引きの普及及び徳島保健所との連携した

入退院支援への取り組み

【取組み内容】

徳島保健所が中心となって運用中の入退院支援の手引きを様々な場面で広報するとともに、徳島市においてより良い入退院支援の体制が構築できるよう徳島保健所と連携、協力する。



【成果や課題等】

退院支援に関するアンケート調査結果をもとに、介護支援専門員協会、徳島保健所とともに徳島市民病院を訪問。入退院支援について具体的な情報交換を行うことができた。入院後におけるケアマネジャーの介入等の体制づくりが今後の検討課題となった。

参考資料㉑

⑤キーパーソン3の開催

【取組み内容】

キーパーソン3（医師・訪問看護師・ケアマネジャー）の連携がより密となるよう、症例検討を通してお互いの距離感を掴み、患者を中心に一体となった在宅医療の提供ができることを目的に開催する。



【成果や課題等】

Web会議形式で「肝臓がん～終末期で在宅医療を始めた患者への支援」をテーマに3職種が意見交換を行った。医師8名、訪問看護師4名、ケアマネジャー17名を含む計37名が参加した。徳島大学病院消化器内科部長 柴田啓志先生から肝臓疾患についてご講演をいただいた。

参考資料㉒

⑥三師会主催多職種のための在宅医療研修会の開催

【取組み内容】

三師会員（医師会・歯科医師会・薬剤師会）及び在宅医療に関わる専門職の在宅医療に対する資質の向上と標準化を目的に開催する。



【成果や課題等】

Zoomを活用したWeb会議形式で開催した。徳島大学感染制御部 部長東桃代先生に「新型コロナ等の感染症の現状と今後の対策」について講演いただいた。薬剤師・訪問看護師・ケアマネジャーを含む63名の専門職から参加があった。講演内容について、「大変役に立った」「最新の話題で興味を持てた」等の好評の声が寄せられた。令和6年度は歯科医師会が担当となる予定。

参考資料㉓

⑦在宅緩和ケア研修会の開催

【取組み内容】

かかりつけ医の在宅緩和ケアに対する知識、技術の標準化を目指すと同時にがん診療連携拠点病院とかかりつけ医の顔の見える関係づくりを構築するため開催。



【成果や課題等】

『在宅における疼痛コントロール』と題し、香川県立中央病院 緩和ケア内科診療科長・緩和ケアセンター長の仁熊 敬枝先生にご講演いただいた。合計84名の専門職に参加をいただき「内容が具体的で分かりやすかった」等好評の声をいただいた。

参考資料㉔

⑧各種研修会・講演会への参加、来館対応

【取組み内容】

在宅医療に関連する研修会・講演会に参加し、知識の習得や取り組みへのヒントを得る。また、来館対応を通じて、関係者と意見交換・情報共有を図り、今後の取り組みへの参考とする。

【成果や課題等】

令和5年度は、徳島大学病院卒後臨床センターから医師の研修を受け入れ、在宅医療に関する関連施策やセンターが実施する各事業の説明等を行った。

参考資料⑦

【在宅医療相談推進事業】

①地域住民からの在宅医療に関する相談窓口

【取組み内容】

在宅医療に関する市民向け相談窓口を設置し、在宅医療の利用方法等に関する相談から医療機関や地域資源の情報提供、また、必要に応じて適切な機関へ繋ぐ等のワンストップ窓口機能として関係機関と密に連携を図りながら対応する。

【成果や課題等】

令和5年度は、地域住民等から146件の相談があり、令和4年度と比較して22件増加した。コロナ禍に伴い来館者は少ないまま推移した。内訳では、訪問診療が可能な医療機関の情報提供に関する問い合わせが最も多かった。

参考資料⑧

